

実務経験のある教員等による授業科目の一覧表 2025

サービス経営学部 サービス経営学科

授業科目名	担当者	単位数	実務経験
エアライン実務論	服部 裕美子	2	国際線客室乗務員として、日本航空株式会社に約10年勤務。フライトタイム累計6,142時間。通常の定期便以外にも数多くの特別便(首相フライトや招待フライト)などを担当し、要人接遇の経験を積んだ。実務経験に基づき、世界のエアライン・サービスの現状とその趨勢、航空業界の実務とオペレーションについて理論と実践の融合を図っている。
エアライン・ビジネス論	馬場 哲也	2	航空会社に勤務。空港旅客業務や本社経営企画を担当。実務経験をもとにエアライン・ビジネスの特性について理論と実践の融合を図っている。
ホテル・旅館経営論	馬場 哲也	2	航空会社ホテル事業部長およびホテル会社執行役員を経験。実務経験をもとにホテル運営・ホテル経営について理論と実践の融合を図っている。
ホテル・フード実務論	富樫 文予	2	株式会社帝国ホテルに勤務。ホテル統括マーケティング部門・宿泊部門を担当。ゲストリレーションズ支配人、エグゼクティブハウスキーパーなどの経験をもとに、ホテル・フードサービスについて理論と実践の融合を図っている。
MICEビジネス論	太田 正隆	2	大手旅行会社のMICE専門会社にてMICE分野の誘致、企画、運営、調査等を行う。観光庁設立前から国土交通省総合政策局においてMICE産業の調査・とりまとめ、委員会の座長等を歴任。各地域におけるMICE施設建設の諮問委員やアドバイザー等。IR(統合型リゾート)立案やコンサルタント、提案書作成等に従事。コンベンション研究会、イベント学会等に所属し実務から理論構築等を行っている。
コンシェルジュ論	富樫 文予	2	株式会社帝国ホテルに勤務。ホテル統括マーケティング部門・宿泊部門を担当。ゲストリレーションズ支配人などの経験をもとに、ホテルのホスピタリティやそれを支える組織や人材について理論と実践の融合を図っている。
ホテル・フードサービス論	富樫 文予	2	株式会社帝国ホテルに勤務。ホテル統括マーケティング部門・宿泊部門を担当。ゲストリレーションズ支配人、エグゼクティブハウスキーパーなどの経験をもとに、ホテル・フードサービスについて理論と実践の融合を図っている。
広告論	金澤 良昭	2	電機メーカーに勤務し広告・広報・販売促進などの業務を担当。実務経験をもとに広告について理論と実践の融合を図っている。
国際金融論	松澤 祐介	2	日本銀行に総合職として勤務。国際局、調査統計局、企画室等で金融政策、金融市場等に関する調査を担当。実務経験をもとに国際金融の仕組み、政策対応等について話をします。
観光サービス論	波瀾 郁代	2	株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、人事(採用)、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、国や自治体の交通政策や自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとに、観光サービスの理論と実践の融合を図っている。
観光まちづくり論	波瀾 郁代	2	株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとに、観光まちづくりの特性について理論と実践の融合を図っている。
観光資源論	波瀾 郁代	2	株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとに観光資源の理論と実践の融合を図っている。
観光実務論	波瀾 郁代	2	株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。コロナ禍の3年間における旅行の変化を各種データや意識調査から研究した。実務経験をもとに、観光実務の理論と実践の融合を図ります。
ニューツーリズム論	波瀾 郁代	2	株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとにニューツーリズムの特性について理論と実践の融合を図っている。
合計		28	

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義＋施設見学	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	無	学外授業	有
授業科目（英名）	エアライン実務論(Practices in Airline Business)						
担当教員名	服部 裕美子						(◎は科目責任者)
<p>〔授業の概要〕 観光におけるエアラインの位置づけを概観します。エアライン業界の特徴や、各職種の業務を学ぶことで「顧客の満足や感動の向上」を実現するために、エアライン各社がどのようなサービスを提供しているかを明らかにします。世界的規模で推進されるネットワーク構築の拡大と顧客サービスの関わり、更にアライアンスを基軸とした観光業界全体の再編に繋がる大きな流れも把握します。またエアライン業界は、世界の政治・経済・気候・病疫等のイベントリスクにさらされています。エアライン業界の動向を把握するために世界のニュースも把握します。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー（3）すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。特に、観光の振興に寄与する人材-エアラインの最前線でサービスに従事する人材育成のための基礎科目です。時代の変化に伴い顧客のニーズも大きく変化し、エアラインのサービスも多様化していますが、観光立国を標榜する日本において、エアラインの果たすべき役割と使命はますます大きく期待されています。「おもてなし」を体現できる、世界に通用するエアラインスタッフになるための基礎知識の修得が主たる目的ですが、エアライン以外のホスピタリティ業界をめざす受講生にとっても、同様に有意義であると思われる。</p> <p>〔到達目標〕 (1)観光におけるエアラインの役割や位置づけ、エアラインのサービス体系を理解し、エアラインスタッフに必要な業界の基礎知識を説明できる。 (2)世界のエアラインの中から特に興味を持った会社について課題に沿ってリサーチをして、発表ができる。 (3)世界の政治・経済・気候・病疫等のイベントリスクと観光や航空業界の動向との関係を把握し、業界の課題を述べるができる。</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	ガイダンス： エアラインを取り巻く環境と観光業界における役割			事前学修（90分）：シラバスをよく読み、この授業の趣旨・内容、評価方法を確認する 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
2	エアラインの歴史と現代的使命： エアラインの誕生から現代のエアライン業界の動向までを学びます			事前学修（90分）：エアラインの始まりについて指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
3	世界の航空機その構造と機種： 飛行理論について理解を深め、世界二大航空機メーカーについて学びます			事前学修（90分）：世界の二大航空機メーカーについて指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
4	世界の空港とその機能： 空港の基本的な設備と機能を学びます。主たる空港コードを覚えます。			事前学修（90分）：世界の空港を3か所選り指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
5	世界のエアラインとアライアンス： 世界の主たるエアラインを把握し、アライアンスによる業界のグループ分けが進んでいることを学びます。エアラインコードを覚えます			事前学修（90分）：三大アライアンスについて指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
6	エアラインの業務とそのサービス： エアラインが提供するサービスについて学びます。			事前学修（90分）：エアラインのサービスについて指定書式に回答し、AAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
7	グランドスタッフの業務と適性： 空港の花形職種であるグランドスタッフの具体的な仕事と流れ、求められる適性を学びます			事前学修（90分）：グランドスタッフの仕事内について指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
8	客室乗務員の業務と適性： エアラインの花形職種である客室乗務員の具体的な仕事と流れ、求められる適性を学びます			事前学修（90分）：客室乗務員の仕事内容について指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
9	空港見学に関する事前研修： 見学当日の流れと、注意点を説明します。グループに分かれて当日の役割分担をします。			事前学修（90分）：空港見学事前課題について指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
10	羽田空港見学： 計画書に従って、第1から第3ターミナルを探索します。			事前学修（90分）：空港見学課題レポートの下調べをする 事後学修（90分）：空港見学課題レポート作成		服部裕美子	
11	FSCとLCC： 格安航空会社の歴史とサービスのスタイルを学びます。			事前学修（90分）：LCCについて指定書式に回答しAAAIに提出する 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	
12	航空会社研究1： 対象とする航空会社を選び研究発表を行います（受講生の研究発表/国内航空会社）			事前学修（90分）：日本の航空会社2社について指定書式に回答しAAAIに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAIに提出する		服部裕美子	

13	航空会社研究2： 対象とする航空会社を選び研究発表を行います（受講生の研究発表/海外航空会社）	事前学修（90分）：海外の航空会社2社について指定書式に回答しAAAに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAに提出する	服部裕美子
14	エアライン知識のまとめ①： これまでの知識を整理し、課題に取り組みます（期末模擬試験）	事前学修（90分）：エアラインの各種ランキングについて指定書式に回答しAAAに提出する。 事後学修（90分）：指定の設問に回答しAAAに提出する	服部裕美子
15	エアライン知識のまとめ②： これまでの知識を整理し、課題に取り組みます（期末試験）	事前学修（90分）：選択したテーマについて指定書式に回答しAAAに提出する。 事後学修（90分）：最終課題レポート作成	服部裕美子
成績評価の方法と基準 授業参画度（30%）、提出課題（30%）、期末試験（40%）により総合的に判断します。			
履修上の留意点 ①エアラインの仕事は、世界の政治・経済と密接な関係で成り立っています。新聞や経済誌を読み、時事問題や世界情勢を把握しておく必要があります。 ②第5回目「エアラインの業務とそのサービス」の回で、業界で活躍中のゲスト講師を招く場合があります。現場の状況をアップデートするためです。 ③講義内容の理解促進のために羽田空港見学を実施する予定です。空港見学の交通費は、各自負担になります。日程の詳細は別途指示しますが、通常の授業曜日以外（土日祝）に実施する予定です。			
ディプロマ・ポリシーとの関連 この科目は、サービス経営学部のディプロマポリシー（1）（2）（3）と関連します。特に（1）との関与度が高い科目です。			
教科書 『航空知識のABC』イカロス出版、2020年			
参考書・参考資料 授業内で、随時紹介します。			
学生との連絡方法 AAAを使用します。詳細は初回の授業で説明します。			
実務経験科目 実務経験科目に該当する。国際線客室乗務員として、日本航空株式会社に約10年勤務。フライトタイム累計6,142時間。通常の定期便以外にも数多くの特別便（首相フライトや招待フライト）などを担当し、要人接遇の経験を積んだ。実務経験に基づき、世界のエアライン・サービスの現状とその趨勢、航空業界の実務とオペレーションについて理論と実践の融合を図っている。			

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	3年次	開講期	後期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目（英名）	エアライン・ビジネス論（Airline business）						
担当教員名	馬場 哲也 (◎は科目責任者)						
<p>[授業の概要] エアライン産業に関わる基本的な知識、ビジネス特性、ビジネス環境の実務知識を習得し、更には公共交通機関としての使命も理解します。また、航空を通して国際文化とは何かを把握します。</p> <p>[科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）] この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー(3)、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。 エアライン業界の基本的な概念を理解し、業界の特性、動向等を理解すると共に、エアラインビジネスに関する知識を深め、国際文化についても理解を深めます。</p> <p>[到達目標] (1) エアラインビジネスの基本的な知識を修得する。 (2) エアラインビジネスについて適切な手段によって適切に表現することができる。 (3) エアラインビジネスの事象の考察や実践に積極的に活用しようとする。 (4) エアラインビジネスの課題を発見し、問題を解決する能力等の思考力を身につける。</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	オリエンテーション、シラバスの説明 授業内容と進め方を説明します。エアラインの役割を理解します。			事前学修（90分）：教科書の「はしがき」「第1章」を読んでおく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
2	日本のエアラインの分類 日本における主要エアラインの事業領域と特性を理解します。			事前学修（90分）：エアラインの分類を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
3	エアラインのサービス概観 国内線、国際線それぞれのクラス別仕様とサービスの特徴を学び、航空運賃との関連を理解します。			事前学修（90分）：エアラインのサービスを調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
4	空港の旅客動線と業務 空港における旅客の搭乗手続きと空港職員の役割、具体的業務を学びます。			事前学修（90分）：空港の旅客動線を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
5	空港設置における環境条件 空港を設置できる環境条件、空港施設の機能と役割を学びます。			事前学修（90分）：空港の機能を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
6	航空運賃と空港使用料 種々の空港使用料と航空運賃との関連について学びます。			事前学修（90分）：航空運賃の種類を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
7	旅客機の特性と空域、空路 旅客機の特性と日本における空域制限等について学びます。			事前学修（90分）：旅客機について調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
8	まとめ 前半のまとめを行います。			事前学修（90分）：今までのまとめをしておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
9	客室乗務員の業務（Cabin Attendant）①と演習 客室乗務員の基本的使命・役割と具体的業務について学びます。			事前学修（90分）：Cabin Attendantの業務を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
10	客室乗務員の業務（Cabin Attendant）②と演習 国際線客室乗務員の具体的業務の一部演習を行います。			事前学修（90分）：国際線Cabin Attendantの業務を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
11	交通機関としてのエアラインの特性 交通機関としての航空運送の特殊性について学びます。			事前学修（90分）：航空の特性を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
12	航空産業の特性 航空産業の事業リスク、イベントリスク等について学びます。			事前学修（90分）：航空産業の特性を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
13	国際文化・慣習と機内食 機内食の特殊性、特別食から見る国際慣習への理解を深めます。			事前学修（90分）：国際文化・慣習を調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
14	大手航空とLCC 格安航空会社と大手航空会社のビジネスモデルの特徴を分析します。			事前学修（90分）：LCCについて調べておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	
15	まとめ これまでの総まとめを行います。			事前学修（90分）：今までのまとめをしておく 事後学修（90分）：プリント・ノートを確認・理解		馬場	

成績評価の方法と基準	授業貢献度10%、毎授業後のコメント票10%、試験80%の要素を総合的に評価します。
履修上の留意点	ニュースや新聞等で、常日頃から、航空関係・サービスのあり方・国際関係に意識して動向を理解していく習慣をつけることを勧めます。
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)、(2)、(3)、(4)と関連しています。特に(4)との関連が高い科目です。
教科書	稲本恵子編 晃洋書房 「エアライン・ビジネス入門」(第2版)2021年
参考書・参考資料	
学生との連絡方法	AAAを使用します。
実務経験科目	実務経験科目に該当する。航空会社に勤務。空港旅客業務や本社経営企画を担当。実務経験をもとにエアライン・ビジネスの特性について理論と実践の融合を図っている。

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目 (英名)	ホテル・旅館経営論 (Hotel and Ryokan Japanese Inn Management)						
担当教員名	馬場 哲也 (◎は科目責任者)						
[授業の概要] 「ホテル業」の歴史、海外・国内の主要ホテルの特徴や経営運営を理解し、また日本独特の「旅館業」の経営運営を考察することにより「宿泊産業」の経営の全体像を把握し知識を深めます。							
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー(3)、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。 「ホテル業」と「旅館業」は「宿泊産業」の両輪として観光業と密接に関連して重要な位置を占めています。ホテルと旅館の経営について知識を習得します。							
[到達目標] (1) ホテル・旅館の経営について基本的な知識を修得する。 (2) ホテル・旅館の経営について適切な手段によって適切に表現することができる。 (3) ホテル・旅館の経営事象の考察や実践に積極的に活用しようとする。							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	オリエンテーション、シラバス説明 授業の内容と進め方を説明します。国内宿泊産業の動向を概観します。			事前学修 (90分) : 行ったことのあるホテルを具体的に考えてみる 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
2	ホテルの施設・機能 ホテルの施設や機能の特徴について学びます。			事前学修 (90分) : ホテルにどのような施設があるのか調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
3	ホテルの職種 外資系ホテル ホテルスタッフの職種と外資系ホテルの定義について学びます。			事前学修 (90分) : ホテルの職種を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
4	宿泊業の特徴 ホテルのカテゴリー分類、系列について学びます。			事前学修 (90分) : ホテルのカテゴリー分類を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
5	旅館経営・運営の実例 (リゾート) リゾートにおける経営・運営の実態と事業再生について学びます。			事前学修 (90分) : リゾートホテルの経営現状を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
6	経営・運営の実例 (シティホテル) シティホテルにおける経営・運営の実態と事業再生について学びます。			事前学修 (90分) : シティホテルの経営現状を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
7	旅館業の概要 ホテル業と旅館業のビジネスモデルの差異、特徴を理解します。			事前学修 (90分) : ホテルと旅館の違いを調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
8	中間のまとめ これまでのまとめを行います。			事前学修 (90分) : 今までのまとめをしておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
9	旅館・温泉の概観 旅館業に関連の強い温泉について、温泉の定義、分類を学びます。			事前学修 (90分) : 温泉旅館について調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
10	宿泊業全体の概観 ホテル・旅館以外の宿泊業にも焦点を当て宿泊業全体を概観します。			事前学修 (90分) : ホテルと旅館以外の宿泊業を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
11	宿泊業の法律・規制・DX 宿泊業にまつわる法制度、近年のDXについて学びます。			事前学修 (90分) : 宿泊業の法律について調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
12	宿泊業の許認可 宿泊業の新設に関わる許認可について学びます。			事前学修 (90分) : 宿泊業の許認可について調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
13	ホテル・旅館の格付け評価 世界のホテルの星・格付けの制度と実態について学びます。			事前学修 (90分) : ホテルの格付けを調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
14	ホテル・伝説のサービス 老舗ホテルから発祥した伝説的サービスについて学びます。			事前学修 (90分) : 伝説のサービスを調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
15	まとめ これまでの総まとめを行います。			事前学修 (90分) : 今までのまとめをしておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		馬場	
成績評価の方法と基準 授業貢献度10%、毎授業後のコメント票10%、試験80%の要素を総合的に評価します。							

履修上の留意点	ニュースや新聞等で、常日頃から、航空関係・サービスのあり方・国際関係に意識して動向を理解していく習慣をつけることをお勧めします。
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)と(2)と(3)と関連しています。特に(1)との関連が高い科目です。
教科書	使用しません。
参考書・参考資料	土井久太郎著『よくわかるホテル業界』日本実業出版社2009年
学生との連絡方法	AAAを使用します。
実務経験科目	実務経験科目に該当する。航空会社ホテル事業部長およびホテル会社執行役員を経験。実務経験をもとにホテル運営・ホテル経営について理論と実践の融合を図っている。

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目 (英名)	ホテル・フード実務論 (Practice in Hotel and Food Service)						
担当教員名	富樫 文予 (◎は科目責任者)						
[授業の概要] 本講義は、サービスの定義、ホテル関連部門の業務、宿泊業の現状などを学修し、ホテルを始めとするサービス業の実務やマネジメントの基礎の理解を深めることを目標とします。							
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー(3)、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。本講義では、サービス経営の基盤となるホテルや料飲部門の実務の基本および付加価値を高めるサービスの意義を学び、今後の専門科目を履修するうえで必要な基礎知識を身につけます。							
[到達目標] (1) ホテルや関連部門の業務を具体的、かつ体系的に理解し、説明することができる。 (2) ホテルやフードサービスにおける、質の高いサービスを提供するための思考力、判断力、コミュニケーション力を修得し、説明することができる。 (3) ホテルビジネス実務検定ベーシック2-1級認定レベルの知識を取得する。							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	オリエンテーション、シラバス説明 授業内容、進め方を説明します。有名ホテルを概観します			事前学修 (90分) : ホテル業・フードサービス産業の仕事内容をイメージしてみる 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
2	ホテル産業の特徴 ホテルの起源と発展、ホテルの定義、ホテルビジネスの特徴について学びます			事前学修 (90分) : 歴史的ホテルにはどのようなものがあるか調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
3	ホテルの実務1 ホテルの部門と基本業務 ホテルの各部門の具体的業務について学びます			事前学修 (90分) : ホテルの基本業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
4	ホテルの実務2 宿泊部門 ホテル宿泊部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテル宿泊部門の業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
5	ホテルの実務3 料飲部門 ホテル料飲部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの料飲部門の業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
6	ホテルの実務4 宴会部門 ホテル宴会部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの宴会業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
7	ホテルの実務5 調理部門 ホテル調理部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの調理業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
8	中間のまとめ (中間テスト) これまでのまとめを行います			事前学修 (90分) : 1回から8回をまとめておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
9	ホテルの実務6 マーケティング部門 ホテルマーケティング部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルのマーケティング業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
10	ホテルの実務7 総務・人事部門 ホテル総務・人事部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの総務・人事業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
11	ホテルの実務8 施設管理部門 ホテル施設管理部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの施設管理業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
12	ホテルの実務9 仕入・購買部門 ホテル仕入・購買部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの施設管理業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
13	ホテルの実務10 経理・会計部門 ホテル経理・会計部門の具体的業務、経営・運営指標について理論と応用を学びます			事前学修 (90分) : ホテルの経理・会計業務を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
14	フードサービス産業の特徴 フードサービスの起源、日本におけるフードサービス産業の市場規模、ビジネスの特徴、課題について理解します			事前学修 (90分) : フードサービス産業の現状を調べておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
15	総まとめ 期末試験の説明			事前学修 (90分) : 今までの総まとめをしておく 事後学修 (90分) : プリント・ノートを確認・理解		富樫	
成績評価の方法と基準 授業貢献度10%、毎授業後のコメント票10%、試験80%の要素を総合的に評価します。							

履修上の留意点	<ul style="list-style-type: none"> ・前期「ホテル・フードサービス論」を履修していることが望ましい。 ・ニュースや新聞等で、常日頃から、ホテルやフードサービスのあり方を意識して動向を理解していく習慣をつけると良いです。
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)と(2)と(3)と関連しています。
教科書	使用しません。
参考書・参考資料	「新ホテル総論」日本ホテル教育センター 2015 「レストラン業務の基礎」日本ホテル教育センター 2018 「ホテルビジネス 基礎編」日本ホテル教育センター 2021 「ホテルビジネス」林田研二〔著〕 2024
学生との連絡方法	AAAを使用します。
実務経験科目	実務経験科目に該当する。株式会社帝国ホテルに勤務。ホテル統括マーケティング部門・宿泊部門を担当。ゲストリレーションズ支配人、エグゼクティブハウスキーパーなどの経験をもとに、ホテル・フードサービスについて理論と実践の融合を図っている。

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	3年次	開講期	前期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目（英名）	MICEビジネス論（MICE Business）						
担当教員名	太田 正隆 (◎は科目責任者)						
<p>〔授業の概要〕 イベント・コンベンション産業から進化しているMICE産業を通じて、レジャーツーリズム（一般観光）と異なる分野のビジネスツーリズム（MICE）を知る。M・I・C・Eの各分野は広くて深い。観光立国実現のためには必須の期待されている分野を理解する</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー（3）、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられる。イベント・コンベンション産業はMICE産業として拡大し期待が大きく、観光立国での重要なビジネス・トラベル分野の施策である。MICE産業は訪日観光、経済効果、地域振興、雇用等についても大きな期待を担っている。2018年末にIR実施法を通じたカジノ構想も大阪地区で決定（2030年竣工予定）。2023年開催された「G7首脳会合（広島）」や各地開催の各大臣会合、2025年開催の「大阪万博2025」、2030年の誘致を断念した「札幌冬季オリンピック」等、MICE誘致やMICE産業への期待や効果、新聞報道等のメディアを通じたリアルタイムな話題も取り入れる。また、全国各地に相変わらず完成又は計画されている国際会議場、展示場等の巨大なMICE施設の話も同様に。更には世界陸上やデフリンピック（2025東京）、アジア大会（2026愛知）、国際園芸博覧会（2027年横浜）など国際的なイベントが目白押しである。誘致開催することで得られる各種の効果（経済・社会・文化等）等について考察する。</p> <p>〔到達目標〕 MICE産業は多様な産業で成り立っており、観光立国の中で重要な役割を担っている。近年の都市戦略等を通じMICEの持つ様々な力を知る。また、オリンピック、万博等の大型スポーツや各種の国際イベントもMICEであることを理解し、開催の目的や得られるプロフィットやベネフィット等も大きいことを理解し習得する</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	＜イベント・コンベンション産業概論・ガイダンス＞授業全体の概要について。イベント・コンベンション及びMICE産業全体の理解			事前学修（90分）：シラバスをよく読んで、興味のある分野、知っている分野、知らない分野等を理解する 事後学修（90分）：講義内容・ノートを確認・理解		太田 正隆	
2	＜レジャー・トラベルとビジネス・トラベル＞イベント・コンベンション、MICEの役割、期待、地域や都市の違いによる考え方を学ぶ			事前学修（90分）：観光（レジャー）以外の旅行形態にはどのようなものがあるかを考えてみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
3	＜欧米とアジアのMICE＞欧米とアジアにおける実態や期待等			事前学修（90分）：新聞等で出て来るイベントやコンベンション、世界で開催されている事例を調べておく 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
4	＜日本におけるMICE＞MICE都市戦略、国際会議観光都市。地域の期待等は何か			事前学修（90分）：大阪IR・カジノ構想（統合型リゾート）、MICE等の新聞・テレビ等の報道を意識してみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
5	＜Meeting（ミーティング産業）の仕組み＞ミーティング産業の基礎的な知識やプレイヤー等の理解			事前学修（90分）：国際的な企業や団体が行うミーティングやイベントの報道に気を配り調べてみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
6	＜Incentive（インセンティブ産業）の仕組み＞インセンティブ産業の基礎的な知識やプレイヤー等の理解			事前学修（90分）：国際的な企業や団体が行うインセンティブやイベントの報道を意識し調べてみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
7	＜Convention（コンベンション産業）の仕組み＞コンベンション産業の基礎的な知識やプレイヤー等の理解			事前学修（90分）：国際機関、政府間会議、学術会議など国際会議やコンベンションの報道を意識し調べてみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
8	＜Exhibition（エキシビション産業）の仕組み＞エキシビション・展示産業の基礎的な知識やプレイヤー等の理解。展示会、見本市、エキシビション、イベントなどについて報道に気を配り、その内容や規模、目的などを理解する			事前学修（90分）：東京国際フォーラム、ビッグサイト、パシフィコ横浜等で開催されているMICEを調べてみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	
9	＜Event（イベント産業）の仕組み＞国際的なイベントの報道に気を配り、その内容や規模、目的などを理解と考察。また、東京オリンピック2020誘致の流れなどから考察する。			事前学修（90分）：国際的なイベントの報道に気を配り、その内容や規模、目的などを理解し調べてみる 事後学修（90分）：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる		太田 正隆	

10	<経済的効果、社会的効果、文化的効果等の様々な効果について> 経済的効果、社会的効果、文化的効果等の様々な効果について・多面的な角度からMICEのもっている多様な効果について理解する	事前学修(90分)：本年(2025年)に開催される大阪万博についてその課題や問題等を調べてみる 事後学修(90分)：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる	太田 正隆
11	<MICEを取り巻く多様な産業と取り巻く様々なプレイヤー> MICEに関して身近なイベントや展示会、国際会議等について報道がされている。開催地、開催場所、参加者以外にはどのような業界が参加しているか	事前学修(90分)：主催者や出演者、参加者以外の開催地や民家の業者等について考察してみる 事後学修(90分)：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる	太田 正隆
12	<観光政策とMICE> 観光政策とMICE・観光立国の中で訪日観光と共にMICE政策は重要な位置を占めており大きな期待がある。これらの意味等について学ぶ。地域においても同様で、国際会議観光都市のポリシー等の考察	事前学修(90分)：観光庁HPにある観光立国、観光政策、MICE等の記載内容をよく読んで理解する 事後学修(90分)：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる	太田 正隆
13	<地域とMICEについて(グローバルMICE、ローカルMICE)> 地域とMICEについて(グローバルMICE、ローカルMICE)・グローバルMICE戦略都市(12都市)が大都市に集中しているが、地方におけるコンベンション推進、MICEに対する期待について学ぶ	事前学修(90分)：国際会議観光都市に選定された地域・自治体等について基礎的な理解を深める 事後学修(90分)：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる	太田 正隆
14	<MICEの実際、MICE施設の紹介等> 近隣のMICE施設で開催されている案件について紹介と解説、開催目的、対象、期待される効果などを多方面から考察する	事前学修(90分)：首都圏や地方にあるMICE施設について基礎的な情報を収集 事後学修(90分)：講義で出た身近なMICEについて考えをまとめる	太田 正隆
15	<総まとめ> イベント・コンベンション、MICE産業全般に関し学んだことを振り返る。	事前学修(90分)：講義で述べた内容やキーワードについて整理し、理解 事後学修(90分)：講義で出た身近なMICEやキーワード等について考えをまとめる	太田 正隆
成績評価の方法と基準	授業貢献度30%、毎授業後のコメント票30%、試験40%の要素を総合的に評価します。		
履修上の留意点	展示会、文化イベント、見本市などに足を運び実際の場面を体験することと、各地域で設置しているMICE MICE施設の設立した意義や目的も意識してみてください。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)、(2)に関連しています。		
教科書	使用しません。		
参考書・参考資料	観光庁には多くのMICE関連の政策や資料があるので積極的に見てください		
学生との連絡方法	AAAを活用します。		
実務経験科目	実務経験科目に該当。大手旅行会社のMICE専門会社にてMICE分野の誘致、企画、運営、調査等を行う。観光庁設立前から国土交通省総合政策局においてMICE産業の調査・とりまとめ、委員会の座長等を歴任。各地域におけるMICE施設建設の諮問委員やアドバイザー等。IR(統合型リゾート)立案やコンサルタント、提案書作成等に従事。コンベンション研究会、イベント学会等に所属し実務から理論構築等を行っている。		

授業形態	開講学部	サービス経営学部	選択	2単位	講義・演習	
	3年次	開講期 前期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目 (英名)	コンシェルジュ論 (Concierge)					
担当教員名	富樫 文予 (◎は科目責任者)					
<p>[授業の概要] 「接客サービスの最高のプロフェッショナル」と称されるフランス発祥のコンシェルジュの歴史・実態を学び、ホテルの枠組みを超えて多種多様な企業産業に配置されている現代日本のホスピタリティ産業の分析をすることで、日本ならではのおもてなしという視点を持ってホスピタリティとは何かを考察します。その学び・考察を基に、課題レポート、プレゼンテーションによる表現を試みます。</p> <p>[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー (3)、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実績的で柔軟な専門性を修得する科目として位置付けられます。本学の必須科目である「対人関係基礎・応用演習」を基に、ホスピタリティ産業全般にわたる顧客満足を目指すとしたコミュニケーションについて考え、その最たるコンシェルジュという職種について考察します。元来ホテル特有のサービスであったコンシェルジュが、今や航空、客船、デパート、電鉄、銀行、不動産、保険などの企業産業に進出している背景を学びます。それは取りも直さず、現代日本の産業に求められているサービスとは何かを考えることに他ならないのです。</p> <p>[到達目標] (1) 「コンシェルジュ」の歴史・背景及び、そのプロフェッショナリズムを理解する。ホスピタリティ産業に全般おける顧客満足を目的としたコミュニケーション力の重要性と方法論を理解する。 (2) 課題に対し、調査・分析および、独自のレポート作成・プレゼンテーションすることができる。</p>						
回	授業計画	授業外学修 (事前学修・事後学修)	担当者			
1	オリエンテーション、ホテルの概要 —ホテルのハード・ソフト・ヒューマン	事前学修 (90分) : ホテルコンシェルジュに関連する資料・記事を読む 事後学修 (90分) : ホテルの概要及びホテルコンシェルジュについて復習・理解	富樫			
2	サービス理論の整理と復習-サービスとホスピタリティ * サービスとホスピタリティに関する討議	事前学修 (90分) : サービスとホスピタリティの違いを調べる 事後学修 (90分) : サービス理論 (サービスとホスピタリティ) について復習・理解	富樫			
3	コンシェルジュの仕事① 現役コンシェルジュの実例 —動画視聴と討議 * サービス体験の共有発表 (1分間スピーチ/15~20名)	事前学修 (90分) : サービス体験発表準備、コンシェルジュの仕事について調べる 事後学修 (90分) : コンシェルジュの仕事についての課題レポートをユニブループより提出	富樫			
4	コンシェルジュの歴史 —レ・クレドールについて、その歴史・組織・運営システム * サービス体験の共有発表 (1分間スピーチ/15~20名)	事前学修 (90分) : サービス体験発表準備、レ・クレドールの組織について調べる 事後学修 (90分) : コンシェルジュの歴史・レ・クレドールについて復習・理解	富樫			
5	コンシェルジュの資質 —コンシェルジュのバイブル「LE HALL (1945年) ~現代 (心の準備、知識・常識) * サービス体験の共有発表 (1分間スピーチ/15~20名)	事前学修 (90分) : サービス体験発表準備、コンシェルジュに必要な資質について調べる 事後学修 (90分) : コンシェルジュの資質についての復習・理解	富樫			
6	コンプレイン・クレーム、ストレス対策 —苦情とは/グッドマンの法則、苦情のメカニズムと苦情対応・ストレス対応	事前学修 (90分) : コンプレインとクレームの違いについて調べる 事後学修 (90分) : コンプレインとクレーム、ストレス対策についての復習・理解	富樫			
7	サービスとチップ、日本のおもてなしと茶道精神	事前学修 (90分) : 茶道のおもてなし精神について調べる 事後学修 (90分) : サービスとチップ、茶道のおもてなし精神についての復習・理解	富樫			
8	中間のまとめ (第1~7回の理解度確認テスト)	事前学修 (90分) : 第1~7回の総復習・理解 事後学修 (90分) : 中間のまとめ課題を提出	富樫			
9	コンシェルジュの仕事② 演習 (第12・13・14回) オリエンテーション 「コンシェルジュ体験 (ケーススタディ)」 学生がホテルコンシェルジュとなりゲスト (教員) 対応を行う、学生各々に事前割り当てられた異なるケースを対応する 学生に割り当てられる60のケースの解説	事前学修 (90分) : コンシェルジュの仕事の各ケースについて事前に調べる 事後学修 (90分) : 演習ケースの下調べをする	富樫			
10	ホテルとコンシェルジュ —同僚・マネジメント・ホテル外の人脈	事前学修 (90分) : ホテル内外のコンシェルジュの人脈について調べる 事後学修 (90分) : ホテル内外のコンシェルジュの人脈の復習・理解	富樫			
11	コンシェルジュの仕事③ 欧米のコンシェルジュ —動画視聴と振り返り	事前学修 (90分) : 欧米のコンシェルジュの仕事について調べる 事後学修 (90分) : 欧米のコンシェルジュの仕事についての復習・理解	富樫			

12	(演習) コンシェルジュ体験 学生がホテルコンシェルジュとなり、個別のケース設定に基づき、スト対応を行う No. 1～No. 20 の15～20ケース (15～20名)、他の学生は、評価を行う	事前学修 (90分) : 演習課題準備 事後学修 (90分) : 演習後評価作成・提出	富樫
13	(演習) コンシェルジュ体験 学生がホテルコンシェルジュとなり、個別のケース設定に基づき、ゲスト対応を行う No. 21～No. 40 の15～20ケース (15～20名)、他の学生は、評価を行う	事前学修 (90分) : 演習課題準備 事後学修 (90分) : 演習後評価作成・提出	富樫
14	(演習) コンシェルジュ体験 学生がホテルコンシェルジュとなり、個別のケース設定に基づき、ゲスト対応を行う No. 41～No. 60 の15～20ケース (15～20名)、他の学生は、評価を行う	事前学修 (90分) : 演習課題準備 事後学修 (90分) : 演習後評価作成・提出	富樫
15	コンシェルジュの広がり —女将と旅館・日本のおもてなし	事前学修 (90分) : 旅館のおもてなしについて調べる 事後学修 (90分) : 日本ならではのおもてなし、コンシェルジュの広がりについて、復習・理解	富樫
成績評価の方法と基準		授業参画・フィードバックシート (15%)、課題 (10%)、試験 (30%)、演習 (45%)	
履修上の留意点		コンシェルジュの出発点となったホテルの基本事項を復習しておく必要があります。	
ディプロマ・ポリシーとの関連		本学部のカリキュラム・ポリシー (1)、(2) と関連しています。特に (1) との関与度が高い科目です。	
教科書		なし、適宜資料配付	
参考書・参考資料		池田里香子著『Le Hall 読み継がれるコンシェルジュのバイブル』オータパブリケーション (2009年) 阿部佳著『「お客様の気持ちを読みとく仕事 コンシェルジュ」秀和システム (2015年)』	
学生との連絡方法		AAA、オフィスアワー	
実務経験科目		実務経験科目に該当する。株式会社帝国ホテルに勤務。ホテル統括マーケティング部門・宿泊部門を担当。ゲストリレーションズ支配人などの経験をもとに、ホテルのホスピタリティやそれを支える組織や人材について理論と実践の融合を図っている。	

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	2年次	開講期	前期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目 (英名)	ホテル・フードサービス論 (Lodging and Food Service Industry)						
担当教員名	富樫 文予 (◎は科目責任者)						
[授業の概要] ホテル産業に関わる基本的な知識の習得、フードサービスの実務知識を習得します。							
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー(3)、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。ホテル経営、レストラン経営の特徴を理解し、ホテルの重要な機能でもあるフードサービスの知識を学び、基本的な仕組みを修得します。							
[到達目標] (1) ホテルおよびフードサービスの経営形態、社会的機能、使命、人材育成、サービス基準・評価等の特徴を説明できる。 (2) ホテルにおける運営上の課題、人材資源、およびフードサービスにおける食文化の特徴を整理・分析し、適切に表現することができる。 (3) ホテルおよびフードサービス経営の観点から、とりわけ利用者側の視点に立ってサービス品質・事象を考察し問題解決策を検討することができる。							
回	授業計画	授業外学修 (事前学修・事後学修)			担当者		
1	オリエンテーション、 ・シラバス説明-15回の授業概要、注意事項等を説明 ・日本のホテルの成り立ちとホスピタリティ	事前学修 (90分) : 行ったことのあるホテルを具体的に考え出しておく 事後学修 (90分) : 行ったことのあるホテルのホームページを熟読する			富樫		
2	ホテル概観 ホテルの使命 ・日本の観光業の概要 ・ホテルの「ハード」「ソフト」「ヒューマン」とは ・「サービス」と「ホスピタリティ」の違いとは	事前学修 (90分) : ホテルの使命にはどのようなものがあるか調べておく 事後学修 (90分) : ホテルの使命について確認・理解			富樫		
3	ホテルの機能 ホテル組織 ・「労働集約型産業」と「装置産業」 ・ホテルの3大商品とその他の機能 ・ホテルの組織、外資系と日系ホテルの違い	事前学修 (90分) : ホテルの機能にはどのようなものがあるか調べておく 事後学修 (90分) : ホテルの機能について確認・理解			富樫		
4	ホテルの仕事と職種① ・営業部門と管理部門 ・「宿泊部門」の仕事と職種 ・「レストラン部門」の仕事と職種	事前学修 (90分) : ホテルの営業部門とはどのような仕事があるかを調べておく 事後学修 (90分) : ホテルの宿泊部門について確認・理解			富樫		
5	ホテルの仕事と職種② ・「宴会部門」の仕事と職種 ・ホテルフライダル ・管理部門の仕事と職種	事前学修 (90分) : ホテルの管理部門にはどのような仕事があるかを調べておく 事後学修 (90分) : ホテルのレストラン・宴会・管理部門について確認・理解			富樫		
6	ホテルの分類 ・欧米のホテルの分類 (国際分類) ・日本特有のホテル分類 (日本分類) ・日本独自の宿泊文化「旅館」	事前学修 : ホテルにはどのような分類があるのかを調べておく 事後学修 : ホテルの分類を確認・理解			富樫		
7	外資系ホテル ・ホテルの起源と歴史、ホテルの3大偉人 ・日本の外資系ホテル	事前学修 (90分) : 外資系ホテルはどのようなホテルがあるのか調べておく 事後学修 (90分) : 外資系ホテルの特徴を確認・理解			富樫		
8	ホテル経営形態 ・ホテルの「所有」「経営」「運営」 ・ホテルの4つの経営形態 ・日本のホテルの資本形態と収益構造	事前学修 (90分) : ホテルの経営にはどのような形態があるのか調べておく 事後学修 (90分) : ホテルの経営形態を確認・理解			富樫		
9	中間のまとめ ・第1回～第7回のまとめ (理解度確認テスト)	事前学修 (90分) : 今までのまとめをしておく 事後学修 (90分) : 中間のまとめを確認・理解			富樫		
10	レストランの種類 ・ホテルのレストランの種類 ・フードサービス産業、その分類と歴史	事前学修 (90分) : レストランにはどのような種類があるのか調べておく 事後学修 (90分) : レストランの種類を確認・理解			富樫		
11	和食の理解 ・スローフードとしての和食 ・和食と食育	事前学修 (90分) : 和食の特徴を調べておく 事後学修 (90分) : 和食の特徴を確認・理解			富樫		
12	和食コース 文化 マナー ・無形文化遺産としての和食 ・「本膳料理」「懐石料理」「会席料理」 ・和食の作法・マナー	事前学修 (90分) : 和食のコースについて調べておく 事後学修 (90分) : 和食のコースについて確認・理解			富樫		
13	フランスコース料理 文化 マナー ・高級フランス料理とフランス地方料理 ・フランス料理の発祥と現代までの変遷 ・高級フランス料理のコースとマナー	事前学修 (90分) : フランス料理について調べておく 事後学修 (90分) : フランス料理について確認・理解			富樫		

14	中華料理 文化 マナー/ハラルフード ・中国四大料理 ・中国料理のマナー ・ハラルフード ・イスラムの文化	事前学修 (90分) : 中華料理・ハラルフードについて調べておく 事後学修 (90分) : 中華料理・ハラルフードについて確認・理解	富樫
15	総まとめ ・第1回～第15回のまとめ ・期末試験の説明	事前学修 (90分) : 全体をまとめておく 事後学修 (90分) : 全体の確認・理解	富樫
成績評価の方法と基準 授業貢献度 (10%)、毎授業後のコメント票 (10%)、試験 (80%) の要素を総合的に評価します。			
履修上の留意点		ニュースや新聞等で、常日頃から、ホテルやフードサービスのあり方を意識して動向を理解していく習慣をつけることをお勧めします。	
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの (1) ～ (3) と関連しています。	
教科書		なし	
参考書・参考資料		「ホテルビジネス (基礎編)」日本ホテル教育センター 2021年 「ホテル・ビジネスブック第2版」仲谷秀一+テイラー雅子+中村光信 [著] 2016年 「ホテルビジネス」林田研二著 [著] 2024年	
学生との連絡方法		AAAを使用します。	
実務経験科目		実務経験科目に該当する。株式会社帝国ホテルに勤務。ホテル統括マーケティング部門・宿泊部門を担当。ゲストリレーションズ支配人、エグゼクティブハウスキーパーなどの経験をもとに、ホテル・フードサービスについて理論と実践の融合を図っている。	

授業形態	開講学部	サービス経営学部	選択	2単位	講義・演習	
	3年次	開講期 後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目 (英名)	広告論 (Advertising)					
担当教員名	金澤 良昭 (◎は科目責任者)					
[授業の概要] 本講義では、理論的視点と実務的視点の両面から、広告についての重要なトピックを取り上げて解説していきます。マーケティング活動の一環としての広告を概観した後、広告媒体ごとの特徴、効果、動向等を学びます。加えて、必要と思われる場合 (広告表現、媒体計画の企画、その他) は、個人もしくはグループでのワーク・討議を通して広告の理解を深めてもらいます。また理解が促進できるよう授業及び、事前事後学修に映像教材を使用する場合があります。						
[科目の位置付け (全学年を通しての関連科目)] この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー (3)、すなわち、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。ホスピタリティ・ツーリズムコースにおいて情報やメディアといった分野を学ぶための一科目です。広告については、さまざまな学問領域で研究されていますが、この授業においては経営学、マーケティングの視点で説明していきます。						
[到達目標] (1) 企業が広告を行う目的やプロセス、効果について基本的な内容、メディアと周辺の技術の変化が広告に及ぼす影響を理解し説明することができる。 (2) 企業が広告を行う目的やプロセス、効果について分析し、その結果を対象者に合わせて文章と図解によって表現することができる。						
回	授業計画		授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	広告を学ぶ上で必要なマーケティングの基礎 マーケティング・ミックス、マーケティング・コミュニケーション、ブランド、IMCについて学修する。		事前学修 (90分) : 広告やマーケティングに関する参考文献を読む 事後学修 (90分) : マーケティング・コミュニケーションの復習		金澤	
2	マーケティング・コミュニケーションの種類、定義、概要 マーケティング・コミュニケーションを構成する、広告、セールスプロモーション、PR、店舗、人的販売、インターネットについて概観する。		事前学修 (90分) : マーケティング・コミュニケーションの種類、定義、概要等に関する予習 事後学修 (90分) : マーケティング・コミュニケーションの種類、定義、概要等に関する復習		金澤	
3	広告の概要 広告の成立要件、およびその種類 (テレビ、ラジオ、新聞、雑誌、インターネット、交通広告、屋外広告、フリーペーパー、) について概観する。		事前学修 (90分) : 広告の概要に関する予習 事後学修 (90分) : 広告の概要に関する復習		金澤	
4	広告メディア① 放送 (テレビ・ラジオ) メディア、OOH (屋外広告、交通広告) の媒体特性について学修する。		事前学修 (90分) : 広告メディア①に関する予習 事後学修 (90分) : 広告メディア①に関する復習		金澤	
5	広告メディア② インターネット・新聞・雑誌の媒体特性、及び広告メディア全般の新しい展開について学修する。		事前学修 (90分) : 広告メディア②に関する予習 事後学修 (90分) : 広告メディア②に関する復習		金澤	
6	広告計画 広告の計画をする上で重要な、状況分析、広告目標設定、媒体計画、表現計画について学修する。		事前学修 (90分) : 広告計画に関する予習 事後学修 (90分) : 広告計画に関する復習		金澤	
7	広告効果と広告予算 広告効果の定義、主要な広告効果モデル、購買後の広告効果、広告調査、国内広告主の概況、広告予算の決定方法、実例について学修する。		事前学修 (90分) : 広告予算と広告効果に関する予習 事後学修 (90分) : 広告予算と広告効果に関する復習		金澤	
8	中間のまとめ 演習形式にて、任意の一般消費財を想定し、前回まで学修した内容の復習を兼ねて広告のプランニングを行う。		事前学修 (90分) : 既習部分の疑問点整理 事後学修 (90分) : 既習部分の復習		金澤	
9	セールス・プロモーション セールス・プロモーション (以下SP) の定義、SPの分類、主要な消費者向けSPの説明、IMCを前提とした企業のSPの在り方について学修する。		事前学修 (90分) : セールス・プロモーションに関する予習 事後学修 (90分) : セールス・プロモーションに関する復習		金澤	
10	広告・SP関連の法と規制 国内における消費財についての法規、公正競争規約制度を概観。また景品表示法については、表示および景品について実例を交え詳しく学修する。		事前学修 (90分) : 広告・SP関連の法と規制に関する予習 事後学修 (90分) : 広告・SP関連の法と規制に関する復習		金澤	
11	PR コーポレートPR (企業広報) とマーケティングPR (商品広報) を概観した上で、マーケティングPRの詳細に触れ、最近の「戦略PR」を紹介する。		事前学修 (90分) : PRに関する予習 事後学修 (90分) : PRに関する復習		金澤	
12	インターネットとマーケティング・コミュニケーション① 消費者とインターネットを活用したコミュニケーションを行う上で知っておくべきことを学修する。内容としては、口コミと企業の対応、個人におけるネット活用の変化 (リアルとネットの実態比較、情報拡散の実態、ダークソーシャル現象、情報収集・検索の変化) などについて取り上げ解説する。		事前学修 (90分) : インターネットとマーケティング・コミュニケーション①に関する予習 事後学修 (90分) : インターネットとマーケティング・コミュニケーション①に関する復習		金澤	
13	インターネットとマーケティングコミュニケーション② 経済活動全般そして、マーケティング・コミュニケーションにも多大な変化をもたらしたネット通販 (EC)、ネットスーパーの実態を概観するとともに、関連する重要な概念 (ダイレクトレスポンス広告、LTV) を開設する。またソーシャルメディアを使った最新のコミュニケーション手法を紹介する。		事前学修 (90分) : インターネットとマーケティング・コミュニケーション②に関する予習 事後学修 (90分) : インターネットとマーケティング・コミュニケーション②に関する復習		金澤	

14	店舗におけるマーケティング・コミュニケーション 店舗内で行われるマーケティング・コミュニケーション活動の中で、「売り場作り」に焦点を当て解説する。VMD理論、フロアゾーニングとフロアレイアウト、陳列、POP、ディスプレイ、商品やストアのプレゼンテーション、空間コーディネートなどについて学修する。	事前学修(90分)：店頭・店舗におけるマーケティング・コミュニケーションに関する予習 事後学修(90分)：店頭・店舗におけるマーケティング・コミュニケーションに関する復習	金澤
15	期末のまとめ 一般消費財について、広告(放送、OOH、雑誌)とSP等の統合的なプランニングを題材に、第14回までに学修した内容の振り返りを行う。	事前学修(90分)：既習部分の疑問点整理 事後学修(90分)：既習部分の復習	金澤
成績評価の方法と基準	学習意欲の把握を行うものとしてコメント票・授業での発言・ケース討議・その他の課題など(50%)、期末レポート課題(50%)により、総合的に評価します。		
履修上の留意点	特にありません。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)および(2)と関連しています。		
教科書	ありません。		
参考書・参考資料	毎回の授業時に必要に応じて参考になる文献を案内いたします。		
学生との連絡方法	メールおよびAAA		
実務経験科目	実務経験科目に該当する。電機メーカーに勤務し広告・広報・販売促進などの業務を担当。実務経験をもとに広告について理論と実践の融合を図っている。		

授業形態	開講学部	サービス経営学部	選択	2単位	講義		
	3年次	開講期	前期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目（英名）	国際金融論（International Finance）						
担当教員名	松澤 祐介						（◎は科目責任者）
<p>〔授業の概要〕</p> <p>サービスの現場や経営を今後担っていく諸君に、海外企業や顧客との取引・「お金」の移動に関係する仕事に就いたとき、その基礎となる知識を身に付けることが狙いです。新型コロナウイルス感染症での移動制限収束すると、再び訪日観光客のブームとなりましたが、これはこの十数年の間に日本のお金「円」と外国のお金との関係、すなわち外国為替市場で円安が進んだこととも関係しています。この円安では、コロナ禍後久しぶりに海外旅行に出た日本人観光客は海外の食費やホテル代をはじめ物価高に困惑しているといえます。しかし、例えばアメリカ合衆国のお金ドルと円の関係が、1ドル=150円から1ドル=100円、つまり「円高」になれば、1ドルのものを50円安く私たちは買えることになり、輸入品が安くなりますから輸入品を扱う/使う業種は繁盛し、海外旅行も有利になることでしょう。このように、日本のお金と外国のお金の関係＝外国為替市場の変動はサービス業の経営にも大きな影響をもたらします。この講義を受講することで世界にはどのようなお金があるのか、という基礎的な知識から、為替相場の変動の理論、その影響、世界的なお金の流れについて説明できるようになり、グローバルに展開するサービス業の現場で従事する際の一助になる講義です。</p> <p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕</p> <p>この科目は、本学部のカリキュラム・ポリシー（3）、すなわち、グローバル経済コースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目として位置づけられます。国際金融論は「経済学」「金融論」の応用科目の一つです。本講義では金融経済に関するより発展的な知識を修得します。</p> <p>〔到達目標〕</p> <p>国際金融に関わる基本的な知識を修得し、特に為替レートに関する仕組み、決定要因及び通貨制度についての基本的な内容を説明できる。国際金融に関連した経済現象について、それがサービス業をはじめ、産業や経済に及ぼす影響及び効果を国際金融の理論的な知識に基づき考察し説明できる。</p>							
回	授業計画	授業外学修 （事前学修・事後学修）			担当者		
1	国際金融で学ぶこと：講義の全体像、国際金融に関する基本的な枠組み	事前学修（90分）：教科書の「はじめに」の箇所を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第1回の内容の復習課題に取り組む。					
2	世界の通貨：主要国の通貨に関する基礎知識	事前学修（90分）：AAAに掲載する主要国通貨の資料を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第2回の内容の復習課題に取り組む。					
3	世界の通貨：途上国の通貨に関する基礎知識	事前学修（90分）：AAAに掲載する途上国通貨に関する資料を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第3回の内容に関する復習課題に取り組む。					
4	外国為替の仕組み：外国送金、海外との決済制度	事前学修（90分）：教科書第1章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第4回の内容の復習課題に取り組む。					
5	外国為替相場：外国為替相場の基本的な仕組み	事前学修（90分）：教科書第2章、第4章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第5回の内容の復習課題に取り組む。					
6	外国為替市場：外為市場の制度、取引	事前学修（90分）：教科書第3章、第4章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第6回の内容の復習課題に取り組む。					
7	国際収支：国際収支表の見方、仕組み	事前学修（90分）：教科書第5章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第7回の内容の復習課題に取り組む。					
8	外国為替の決定理論	事前学修（90分）：教科書第6章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第8回の内容の復習課題に取り組む。					
9	国際金融と経済政策：国際マクロ経済学の基本	事前学修（90分）：教科書第7章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第9回の内容の復習課題に取り組む。					
10	国際通貨制度：IMF等の国際金融機関、通貨当局の機能と役割	事前学修（90分）：教科書第8章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第10回の内容の復習課題に取り組む。					
11	国際通貨制度の変遷：金本位制から現在までの展開	事前学修（90分）：教科書第8章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第11回の内容の復習課題に取り組む。					

12	通貨統合：ヨーロッパの共通通貨ユーロ	事前学修（90分）：教科書第9章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第12回の内容の復習課題に取り組む。	
13	国際資本移動：その経済的な成果と問題点	事前学修（90分）：教科書第10章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第13回の内容の復習課題に取り組む。	
14	通貨危機と政策対応：アジア通貨危機、グローバル金融危機、ユーロ危機とその対応	事前学修（90分）：教科書第11章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する第14回の内容の復習課題に取り組む。	
15	国際金融・通貨制度の展望：元の国際化、FinTechの影響	事前学修（90分）：教科書第12章を熟読する。 事後学修（90分）：AAAに掲載する講義全体の内容に関する復習課題に取り組む。	
成績評価の方法と基準		試験の成績（50%）と講義の復習のための提出課題（50%）で評価します。	
履修上の留意点			
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、サービス経営学部ディプロマポリシーの（1）、（3）と関連しています。特に国際金融、外国為替の仕組みを自ら考える能力を身に着けることが求められます。	
教科書		西村陽造他『新・国際金融のしくみ』有斐閣 2020年	
参考書・参考資料			
学生との連絡方法		AAAを活用します。	
実務経験科目		実務経験科目に該当する。日本銀行に総合職として勤務。国際局、調査統計局、企画室等で金融政策、金融市場等に関する調査を担当。実務経験をもとに国際金融の仕組み、政策対応等について話をします。	

授業形態	開講学部	サービス経営学部	選択	2単位	講義		
	2年次	開講期	前期	ディスカッション	無	学外授業	無
授業科目（英名）	観光サービス論（Tourism Industry）						
担当教員名	波瀾 郁代						（◎は科目責任者）
<p>〔 授業の概要 〕 観光は、異なる背景を持つ人、国や地域の相互理解を促し、歴史や文化を知る機会を提供し、そして経済効果をもたらすなど幅広い影響力を持っています。2024年の訪日外国人旅行者数は3,687万人、消費額は8.1兆円と過去最高となりました。これら国内外の旅行者を支えているのが観光産業であり、旅行者の増加にニーズの多様化で事業領域は拡大しています。本授業では、観光サービスの提供という立場から、①現代社会における観光の意義 ②観光サービスおよびそれに関わる事業者の理解 ③観光が現在抱える課題や未来の姿について理解を深めます。</p> <p>〔 科目の位置付け（全学年を通しての関連科目） 〕 本科目は、本学部のカリキュラムポリシー（3）、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目に位置付けられます。観光サービスの本質的な理解により、利便性や合理性が追求される現代社会において、心豊かに暮らすとはどういうことか、そのために必要なことや省力化すべきことを考えるための基礎知識を得ることを目指します。</p> <p>〔 到達目標 〕 (1) 観光とは何か、基礎的知識を習得し、観光が社会や人々にもたらす影響について語ることができる (2) 観光に関わるビジネスの現状を理解し、今後のあり方について自分の意見を持ち、説明することができる (3) 観光産業が抱える課題について観光学の観点から考察し、課題解決を検討することができる。</p>							
回	授業計画		授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者		
1	本講義の紹介 本授業の概要と、その他のホスピタリティ・ツーリズムの授業、「観光実務論」「観光資源論」「ニューツーリズム論」「観光まちづくり論」の学びの視点や目的の違いを理解し、日本社会の目指すべき姿の中で、なぜ観光が必要なのか、広い視点に立ち観光の意義を知る。		事前学修（90分）：シラバスを読み、この授業の方式・内容を確認する 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題に回答する		波瀾 郁代		
2	旅の歴史と観光サービスの誕生／日本社会における観光の持つさまざまな影響力について 旅の歴史を知ることにより、観光サービスとは何か、サービスの提供とはどのようなことか理解する。 旅行・観光が社会に対して持つ、さまざまな影響力について理解する。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する。		波瀾 郁代		
3	観光を構成する要素について 観光サービスを学ぶ上で必要な言葉を学ぶ。 観光におけるカスタマージャーニーを学びながら、旅行者（発地）と地域（着地）の関係を理解するとともに、観光サービスを提供する組織や事業者を知る。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
4	日本の社会と観光について／世界における観光について 日本の経済の現状、少子高齢化や地域間格差など現状と課題を理解する。日本社会における観光の市場規模、世界の観光の市場規模をさまざまな視点から学ぶ。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
5	観光産業の特性 観光産業の市場特性、観光サービスを提供するビジネスの特徴を、製造業など観光産業以外と比較しながら理解する。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
6	観光ビジネス① ～宿泊業～ 成り立ちと種類、現在の動きを学ぶ。主要ホテルチェーンと経営形態を理解する。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す。ホテルや旅館のウェブサイトを目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
7	観光ビジネス②-1 ～旅行業～ 成り立ちと観光における役割、過去から現在に至る動きを学ぶ。旅行業法に基づく登録制度を理解する。 前週の授業を振り返りながら、宿泊を中心とした旅行商品の販売の変遷と現状について理解する。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す。旅行会社のウェブサイトを目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
8	観光ビジネス②-2 ～旅行業～ 大手旅行会社を中心とした、従来型の旅行販売ビジネスから課題解決型のビジネスへのシフトチェンジについて事例をもとに理解を深める。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す。旅行会社のウェブサイトを目を通す 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
9	観光ビジネス③-1 ～公共交通機関～ 鉄道、航空、バスタクシー、船について事業概要と主要各社のビジネス領域の拡大、環境配慮の取り組みなど現在の動きを理解する。いずれかの授業でゲスト講師を予定。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す。 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
10	観光ビジネス③-2 ～公共交通機関～ 鉄道、航空、バスタクシー、船について事業概要と主要各社のビジネス領域の拡大、環境配慮の取り組みなど現在の動きを理解する。いずれかの業種でゲスト講師を予定。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す。 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		
11	観光ビジネス③-3 ～公共交通機関～ 鉄道、航空、バスタクシー、船について事業概要と主要各社のビジネス領域の拡大、環境配慮の取り組みなど現在の動きを理解する。いずれかの業種でゲスト講師を予定。		事前学修（90分）：講義資料を目を通す。 事後学修（90分）：講義資料やメモをもとに、AAAIに事前登録した復習問題や課題に回答する		波瀾 郁代		

12	国や地方自治体と観光振興について 観光振興における行政の役割、構成組織を理解するとともに、独立行政法人である日本政府観光局、地域における民間団体の観光協会、DMOについて機能を学ぶ。	事前学修(90分)：講義資料に目を通す 事後学修(90分)：講義資料やメモをもとに、AAAに事前登録した復習問題や課題に回答する	波潟郁代
13	挑戦を続ける地域の観光事業者の事例 地域の観光事業者の取り組み事例として、スキー場から通年のマウンテンリゾートへ変貌を遂げようとするスキー場経営について、ビジネス戦略について学ぶ。	事前学修(90分)：講義資料に目を通す 事後学修(90分)：講義資料やメモをもとに、AAAに事前登録した復習問題や課題に回答する	波潟郁代
14	観光産業におけるイベントリスク/オーバーツーリズムとSDGs 災害、感染症などのイベントリスクの影響について、過去の事例をもとに理解する 交流人口の増加とともに問題になっているオーバーツーリズムと、SDGsへの取り組みについて理解する。	事前学修(90分)：講義資料に目を通す 事後学修(90分)：講義資料やメモをもとに、AAAに事前登録した復習問題や課題に回答する	波潟郁代
15	授業総括 これまでの授業全体の理解度のチェックと、観光サービスについて、自らの考えをまとめ述べる内容のレポート作成を期末試験として実施する。	事前学修(90分)：これまでの資料を読む 事後学修(90分)：授業内容を復習する	波潟郁代
成績評価の方法と基準		学習意欲の把握を行うものとして出席、およびフィードバックシート、AAAを使った授業毎の修学度チェックの提出と内容(50%)、期末に授業全体の理解度チェックと自らの考えをまとめるなど応用力を問う課題(50%)	
履修上の留意点		前提として、直接旅行者にサービスを提供する事業を学ぶという狭い見方ではなく、様々な事業者が様々な形で観光に関わりを持つ可能性があると考えて履修してください。その中で観光サービスを提供する事業者のうち1つでも興味関心を持ち、普段から身近なものとして注目し、疑問や意見を自らの言葉で表現することを期待します。	
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)～(3)に関連します。観光サービスに関わる知識を得て、観光にかかわる身近な現象について気付き、考察する力を有していただきたいと思います。	
教科書		使用しません。	
参考書・参考資料		適宜資料を紹介します。	
学生との連絡方法		AAAやメールを用いて連絡を取ります。	
実務経験科目		実務経験科目に該当する。株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、人事(採用)、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、国や自治体の交通政策や自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとに、観光サービスの理論と実践の融合を図っている。	

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	3年次	開講期	後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	観光まちづくり論（Tourism and Community Design）						
担当教員名	波潟 郁代 (◎は科目責任者)						
<p>〔授業の概要〕 日本の総人口は2008年をピークに減少に転じるとともに、総人口に占める65歳以上の高齢者の割合は2024年で29.3%に達しています。特に人口流出の大きい地方部における活力の低下は喫緊の課題です。持続可能な地域のあり方にローカル経済圏の形成は不可欠で、その下地となるのが産業振興とまちづくりです。近年は、まちづくりに観光の視点が取り入れられ、地域が主体となり、自然、文化、産業、人とあらゆる地域の資源を活かす観光まちづくりの取り組みが各地で進んでいます。 本授業では、「住んでよし、訪れてよし」、つまり「自らの地域を愛し、誇りをもって暮らしているならば自ずと誰しもが訪れたいくなる」を前提に、データから課題を見出し、観光まちづくりを地域の課題解決にどう結び付けることができるのか、事例とともに解説します。その後、特定地域について課題の可視化と観光まちづくり案の構想を自由に考え、授業内で共有します。</p>							
<p>〔科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）〕 本科目は、本学部のカリキュラムポリシー(3)、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目に位置付けられます。課題先進国といわれる日本社会において、地域住民と訪問者の両者が豊かになるまちづくりに必要な基礎知識を得ながら、自らの関心度を深めることを目指します。</p>							
<p>〔到達目標〕 (1)日本が抱える社会課題を理解し、「住んでよし、訪れてよし」の状態はということなのか持論を展開できる。 (2)観光まちづくりの事例を通して、観光の視点を活用した地域活性化を提案できる。 (3)観光の課題を地域の観光以外の資源を活かして融合した観光振興の提案ができる。</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	本講義の紹介および観光まちづくりの基本的な考え方 授業概要および他のホスピタリティ・ツーリズムの授業の違い（学びの視点の違い）を理解する。観光まちづくりのための観光マーケティングの全体像を、大学近郊の都市の観光まちづくりを事例として理解する。			事前学修（90分）：シラバスを読み、この授業の方式・内容を確認する 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
2	まちづくりのための観光マーケティングとは何か①～観察力と妄想力を養う～ SWOT分析について理解する。動画の趣旨を理解する。渋谷に関わる動画（3回分）を視聴し、SWOT分析を行う。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
3	まちづくりのための観光マーケティングとは何か②～観察力と妄想力を養う～ グループワーク 残りの動画を視聴、SWOT分析を行う。分析から課題を見出し、解決策を討議する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
4	渋谷のまちづくりの変遷について① 渋谷のまちづくりの変遷について、行政、東急電鉄グループの役割を理解する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
5	渋谷のまちづくりの変遷について② 渋谷のまちづくりの変遷について、行政、東急電鉄グループの役割を理解する。計画に対する実態をデータをもとに現状を把握する。（ゲスト講師を検討）			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
6	東京23区のまちのあり方について 森記念財団都市戦略研究所による東京23区のまちづくりの分類をもとに、エリアの特徴と東京の「グローバル都市型観光」について理解する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
7	日本の代表的な大都市の観光まちづくり① 東京都以外の日本を代表する主要5都市の歴史的背景を理解しながら、多様な目的を持つ多様な訪問者からなるグローバル型大都市観光を目指したまちづくりを理解する。各都市の概要、現状課題を自ら調べてみる。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
8	日本の代表的な大都市の観光まちづくり② 東京都以外の日本を代表する主要5都市の歴史的背景を理解しながら、多様な目的を持つ多様な訪問者からなるグローバル型大都市観光を目指したまちづくりを理解する。 5都市の中でGREEN×EXPO 2027を控える横浜市の目指すまちづくりに焦点をあて、観光戦略、イベントなどから全体像を把握する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
9	地方における観光まちづくり①～行政のしくみ～ 地方自治体の「総合計画」「観光振興計画」の内容を理解し、観光まちづくりに関する取り組みや課題をいくつかの地方都市を事例から理解する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
10	地方における観光まちづくり②～観光まちづくりを担う人材～ 地域に入り、地域と一体となり、持続可能な観光まちづくりに携わる観光プロでニューサーの仕事を通じて、観光まちづくりの実際の仕事としくみを理解する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
11	地方における観光まちづくり②～観光まちづくりに必要なデータ分析～ 地域の実態を把握し、課題を見つけるために必要なデータと活用を学びます。RESAS（地域経済分析マップ）、JTBパワーインデックスを使い、特定地域の現状を可視化する。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	
12	人々のライフスタイルの変化と旅のあり方の変化について 従来型の観光資源を持たない地域が観光振興に持つ、あるいは訪問者が来るようになった社会の変化やライフスタイルの変化を理解するとともに、観光まちづくりはどのように変化してきたか学ぶ。			事前学修（90分）：事前に資料を読む 事後学修（90分）：事前に登録したAAAの復習問題に回答する		波潟郁代	

13	従来型観光資源を持たない地域の観光まちづくり オープンファクトリーなど、他の産業と連携することでまちが変化した事例を学ぶ。	事前学修(90分)：事前に資料を読む 事後学修(90分)：事前に登録したAAAの復習問題に回答する	波潟郁代
14	グループワーク 特定地域の観光まちづくりを考える。	事前学修(90分)：事前に資料を読む 事後学修(90分)：事前に登録したAAAの復習問題に回答する	波潟郁代
15	授業総括 これまでの授業全体の理解度のチェックと、特定地域の観光まちづくりについて、自らの考えをまとめ述べる内容のレポート作成を期末試験として実施する。	事前学修(90分)：観光マーケティングの復習 事後学修(90分)：授業内容を復習する	波潟郁代
成績評価の方法と基準		学習意欲の把握を行うものとして出席およびフィードバックシートの提出と内容(50%)、授業全体の理解および自らの考察をまとめる応用力を問う期末試験を実施(50%)	
履修上の留意点		現代の社会の課題にはたった1つの正解が決まっているわけではありません。臆することなく、議論、質問、課題への取り組みを期待します。地理や歴史の基本的な知識を必要とします。	
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(2)、(4)に関連します。本講義で学んだ経験を活かし、地域の課題に関心を持ち、身近な現象について気づき、考察する力を有していただきたいと思います。	
教科書		使用しません。	
参考書・参考資料		授業内で随時紹介します。	
学生との連絡方法		AAAやメールを用いて連絡を取ります。	
実務経験科目		実務経験科目に該当する。株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当し、生活者のライフスタイルや価値観の変化を研究するとともに、自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとに、観光まちづくりの特性について理論と実践の融合を図っている。	

授業形態	開講学部	サービス経営学部	選択	2単位	講義	
	3年次	開講期 前期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	観光資源論（Tourism Resources）					
担当教員名	波潟 郁代 (◎は科目責任者)					
<p>〔 授業の概要 〕 第二次世界大戦後の日本の観光は、復興で経済が上向き、暮らしに余裕ができると、レジャーに関心が高まり、多くの人が旅行を楽しむようになりました。当時の旅行先は、名所旧跡や自然、温泉に代表される有名観光地が主流で、旅行者の「行く場所、見るもの、食べるもの」の行動は画一的でした。しかし、社会経済が成熟し、デジタル化による技術革新、ライフスタイルの変化に伴い、旅行者のニーズは多様化し、地域のさまざまなモノやコトが観光資源として旅をいざなうようになりました。今では、地域に根ざした伝統工芸や地場産業、そこに暮らす人々の生活文化も魅力的な観光資源となり、以前は観光地と思われなかった場所にも多くの人が来訪しています。本講義では、観光資源の基礎を理解した上で、観光資源の潮流と現状の課題をとらえます。また、各地域の魅力を掘り起こし、どんなポイントを誰に、どのように伝えると効果的なのか事例をもとに考える力を身につけることを目指します。</p> <p>〔 科目の位置付け（全学年を通しての関連科目） 〕 本科目は、本学部のカリキュラムポリシー(3)、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目に位置付けられます。観光の状況を客観的に把握し、現状の課題や変化を見出せるよう、観光を取り巻く社会とのつながりを理解し、俯瞰力を身につけます。</p> <p>〔 到達目標 〕 (1)観光資源の基礎知識を理解する。観光資源としての価値や人を惹きつけるものは何か、各地の観光資源を事例に説明できる。 (2)持続可能な観光のための観光資源に関する現代の課題について理解する。各地でどのような取り組みがなされているか把握し、体系的に説明ができる。</p>						
回	授業計画		授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	本講義の紹介 観光の構成要素全体における観光資源の位置付けと、他のツーリズムの授業の違い(学びの視点の違い)を理解する。旅行スタイルの変化に伴い観光資源のあり方と活用が変化している現状を学ぶ。		事前学修(90分):資料およびシラバスを読み、この授業の方式・内容を確認する 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
2	観光のしくみと観光資源の基本的考え方 観光資源の定義、観光資源の種別について学ぶ。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
3	日本の観光資源評価 (公財)日本交通公社の観光資源評価に基づいた資源評価を学ぶ。 観光資源の種別と評価に基づいた課題を行う。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題および授業中の課題のまとめを回答する		波潟郁代	
4	日本を代表する観光資源と活用している観光地① ~温泉~ 日本の観光資源の中で、「温泉」「歴史的建造物」「グローバル型都市における観光資源」に焦点をあて、それぞれの事例を通じて、どのように資源を活かし、磨いてきたのか時代の変化とともに理解する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
5	日本を代表する観光資源と活用している観光地(前週の続き)② ~歴史的建造物~ 日本の観光資源の中で、「温泉」「歴史的建造物」「グローバル型都市における観光資源」に焦点をあて、それぞれの事例を通じて、どのように資源を活かし、磨いてきたのか時代の変化とともに理解する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
6	国際観光の現状と観光資源 世界の観光の現状をデータを活用し多面的に理解する。世界経済フォーラム(WEF)の「旅行・観光開発ランキング」を読み解き、特に観光資源に関する評価を国・地域別に理解する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
7	日本を代表する観光資源と活用している観光地(前々週の続き)③ ~グローバル型都市における観光資源~ 日本の観光資源の中で、「温泉」「歴史的建造物」「グローバル型都市における観光資源」に焦点をあて、それぞれの事例を通じて、どのように資源を活かし、磨いてきたのか時代の変化とともに理解する。 森記念財団戦略研究所「世界の都市総合カランキング」をもとに、主要都市の観光の魅力の源泉を理解する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
8	世界の観光資源の動向 ~世界遺産~ 世界遺産登録制度の背景や種別を学ぶとともに、観光への影響を理解する。海外著名な世界遺産のある国や都市と観光の現状を学ぶ。 日本の世界遺産と近年の登録について理解する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
9	海外メディアから見た日本の魅力的な地域・都市評価と生活文化資源について 旅のニーズの変化と、近年海外メディアから「行きたい旅行先」に選ばれる日本の地域・都市の多くに言及される生活文化について理解を深める。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
10	日本の観光政策と観光資源の保護、サステナビリティ		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	
11	韓国の観光戦略/グループワーク 多くの日本人が訪れる韓国の観光の歴史、戦略について理解する。 韓国の観光資源を洗い出しと整理を行う。理想の観光ルートを作成する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題およびグループワークに関する課題を回答する		波潟郁代	
12	観光地における観光資源のマネジメント① ニセコなどを事例に雪を観光資源とするスノーリゾートの変遷を理解する。		事前学修(90分):授業資料を読む 事後学修(90分):AAAに事前登録した復習問題に回答する		波潟郁代	

13	地域における観光資源のマネジメント② 地場産業、農業を観光資源とした近年の地域の取り組みを理解する。	事前学修(90分)：授業資料を読む 事後学修(90分)：AAAに事前登録した復習問題に回答する	波潟郁代
14	地域における観光資源のマネジメント②(続き) / グループワーク 「お茶」を使った全国の観光振興について、グループワークを行う。	事前学修(90分)：授業資料を読む 事後学修(90分)：AAAに事前登録した復習問題の回答およびグループワークを完成する	波潟郁代
15	授業総括 これまでの授業全体の理解度のチェックと、観光サービスについて、自らの考えをまとめ述べる内容のレポート作成を期末試験として実施する。	事前学修(90分)：これまでの講義で得られた知見についての回答 事後学修(90分)：授業内容を復習する	波潟郁代
成績評価の方法と基準	授業への参加度(出席率およびリアクションペーパーの提出と内容、および課題の内容を評価します)…60% 授業全体の理解度および自らの考察をまとめる応用力を問う期末試験…40%		
履修上の留意点	授業内容に関する積極的な回答や質問、事前・事後学修への意欲的な取り組みを期待します。国内外の地理、歴史の基礎的知識を必要とします。		
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマポリシー(1)、(2)と関連しています。とくに観光資源に関わる考え方を学ぶことで、自らの興味がある観光資源や現代の観光資源のトレンドについて客観的に考察・説明する能力を身につけることが重要です。		
教科書	使用しません。		
参考書・参考資料	適宜紹介します。		
学生との連絡方法	AAAやメールを用いて連絡を取ります。		
実務経験科目	実務経験科目に該当する。株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとに観光資源の理論と実践の融合を図っている。		

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義およびグループ討議	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	観光実務論（Practices in Tourism Business）						
担当教員名	波潟 郁代 (◎は科目責任者)						
<p>〔 授業の概要 〕 観光庁が2008年に設立された際、観光立国を目指し、観光振興を推進するために最初に整備されたのが「観光統計」でした。訪日外国人旅行者が増加し、観光形態や観光地が変容する中、観光客数や売上を拡大するには、観光の現状を客観的に把握すること、つまり、旅行者の姿を知り、地域を分析し解を見出すことが必要です。その指標となるのが観光統計や意識調査による様々なデータです。 本講義では、観光の現状把握に必要なデータの理解を深めるとともに、これらデータが観光ビジネスでどのようなシーンで使用されるか実務との関わりについて学びます。グループで話し合う時間を設け、特定地域について、データをもとに、現状把握と課題の抽出、解決策を考えます。</p> <p>〔 科目の位置付け（全学年を通しての関連科目） 〕 この科目は、本学部のカリキュラムポリシー(3)、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目に位置付けられます。観光の市場や地域の現状をデータに基づき客観的に把握し、課題や変化を見出す、また、観光を取り巻く社会とのつながりを理解し、俯瞰力を身につけます。</p> <p>〔 到達目標 〕 (1) 旅行・観光の現状把握や課題の抽出に必要な情報を、身近な情報やニュース、統計データなどから選択肢、絞り込み、他者が理解できるように説明できる。 (2) 観光統計や意識調査など様々なデータの種類の種類と観光サービスを提供するうえでの活用方法を知る。 (3) データから旅行者の姿や観光の現状を理解し、課題を見つけことができる。課題を解決するための仮説を論じることができる。</p>							
回	授業計画			授業外学修 (事前学修・事後学修)		担当者	
1	<p>講義ガイダンス</p> <p>本授業の概要と、その他のホスピタリティ・ツーリズムの授業、「観光サービス論」「観光資源論」「ニューツーリズム論」「観光まちづくり論」の学びの視点や目的の違いを理解する。 授業に登場する用語やデータの種類を知る。</p>			<p>事前学修（90分）：シラバスを読む、事前資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する</p>		波潟郁代	
2	<p>一般的なデータの種類と活用事例</p> <p>オープンデータ、ビッグデータ、意識調査によるデータを理解するとともに、各種データについて、観光関連にはどんなデータがあるか活用事例を学ぶ。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む。旅行年報の日本人の旅行動向を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する</p>		波潟郁代	
3	<p>観光の現状把握に必要な統計を理解する・データを読み解く①</p> <p>（公財）日本交通公社「旅行年報」から、基本的な日本人の旅行行動について具体的にデータを読み解きながら理解する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する</p>		波潟郁代	
4	<p>観光の現状把握に必要な統計を理解する・データを読み解く②</p> <p>観光庁および日本政府観光局および各国の政府観光局が提供するオープンデータについての学びを深める。 「訪日外客数、日本人出国者数（日本政府観光局）」「主要国への日本人旅行者数（各の政府観光局）」「宿泊旅行統計調査（観光庁）」</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む。観光庁の観光統計のサイトをみる 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する</p>		波潟郁代	
5	<p>観光の現状把握に必要な統計を理解する・データを読み解く③</p> <p>「インバウンド消費動向調査」から訪日外国人の消費の変化と行動を学ぶ。インバウンド消費額および消費科目について全体的な傾向をを把握する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む。観光庁の観光統計のサイトをみる 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する</p>		波潟郁代	
6	<p>観光の現状把握に必要な統計を理解する・データを読み解く④</p> <p>「インバウンド消費動向調査」から訪日外国人の消費の変化と行動を学ぶ。年次報告書のインバウンドの消費動向や情報取得手段など、インバウンドの行動や嗜好を可視化する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む。観光庁の観光統計のサイトをみる 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する</p>		波潟郁代	
7	<p>グループワーク 1</p> <p>訪日外国人消費動向調査をグループで分析、検討し、特定の地域を選び、食やショッピングについて、消費拡大のアイデアをグループで議論する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む。プランをイメージをつくる 事後学修（90分）：授業の議論をもとに、AAAに事前登録した課題を行う</p>		波潟郁代	
8	<p>観光の現状把握に必要な統計を理解する・データを読み解く⑤-1</p> <p>「JTB旅行動向見通し（JTBが発表する旅行推計）」を読む。実際に使用されている公的データのうち、経済統計について理解する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む 事後学修（90分）：授業の議論をもとに、AAAに事前登録した課題を行う</p>		波潟郁代	
9	<p>観光の現状把握に必要な統計を理解する・データを読み解く⑤-2</p> <p>「JTB旅行動向見通し（JTBが発表する旅行推計）」を読む。実際に使用されている公的データのうち、旅行者アンケートについて理解する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む 事後学修（90分）：授業の議論をもとに、AAAに事前登録した課題を行う</p>		波潟郁代	
10	<p>旅行・観光に関する情報媒体を理解する／グループワーク 2</p> <p>カスタマージャーニーに添い、旅行情報媒体の種類や機能を理解する。これまで学んだデータをもとに、旅行サイト運営者になったつもりでプロモーション計画をグループで議論する。</p>			<p>事前学修（90分）：事前資料を読む、各種サイトやSNSを見る 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題を行うとともに、議論をまとめる</p>		波潟郁代	
11	<p>観光マーケティングを活用した事例の紹介</p> <p>データを活用した観光ビジネスの事例を、実際に携わっている外部講師から学ぶ。</p>			<p>事前学修（90分）：ゲスト講師の所属組織のウェブサイトをみる 事後学修（90分）：AAAに事前登録した課題を行う</p>		波潟郁代	

12	観光立国と国や自治体・民間事業者のインバウンド政策① 観光立国推進基本計画、および地方自治体の観光振興計画を理解する。消費額拡大、地方誘客促進につながる事例から高付加価値の旅行・観光とは何かを考察する。近年の富裕層といわれる層が求める旅行の傾向を理解する。	事前学修（90分）：事前資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した課題を行う	波潟郁代
13	観光立国と国や自治体・民間事業者のインバウンド政策② 日本のクルーズ市場の現状、インバウンド事業者のビジネスを理解する。	事前学修（90分）：事前資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した課題を行う	波潟郁代
14	グループワーク3 地域の観光関係者になったつもりで、高級クルーズ船会社やインバウンド旅行会社に採用してもらうための、富裕層向け観光プランの企画する。これまでの学びを活かし、旅行プランをグループに分かれて議論する。	事前学修（90分）：事前資料を読む。プランをイメージをつくる 事後学修（90分）：授業の議論をもとに、AAAに事前登録した課題を行う	波潟郁代
15	授業総括 これまでの授業全体の理解度のチェックと、データや資料使用して自らの意見をまとめる応用力を問う内容のレポート作成を期末試験として実施する。	事前学修（90分）：これまでの講義内容を復習する 事後学修（90分）：講義内容をまとめる	
成績評価の方法と基準		学習意欲の把握を行うものとして出席率およびフィードバックシートの提出状況と内容（30%）、授業中のグループワークなどでの取り組みとアウトプットの内容（30%）、期末試験（40%）	
履修上の留意点		本講義はただ話を聞くだけではなく、自らデータを読み説き、グループワークで課題と解決策の仮説を出す作業を行います。1つの正解を求めるための講義ではありませんので、考えることを楽しもうと思える積極的な学生の受講を期待します。国内外の地理、歴史の基礎的知識を必要とします。	
ディプロマ・ポリシーとの関連		本科目は、サービス経営学部ディプロマ・ポリシーの(1)、(2)に関連します。特に観光動態を自ら調べ、理解することが重要です。	
教科書		使用しません。	
参考書・参考資料		適宜、紹介します。	
学生との連絡方法		AAAやメールを用いて連絡をとります。	
実務経験科目		実務経験科目に該当する。株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。コロナ禍の3年間における旅行の変化を各種データや意識調査から研究した。実務経験をもとに、観光実務の理論と実践の融合を図ります。	

授業形態	開講学部	サービス経営学部		選択	2単位	講義	
	2年次	開講期	後期	ディスカッション	有	学外授業	無
授業科目（英名）	ニューツーリズム論（New Tourism）						
担当教員名	波瀾 郁代 (◎は科目責任者)						
<p>[授業の概要]</p> <p>ニューツーリズムとは、名所旧跡や景勝地を訪問する従来型の観光旅行ではなく、テーマ性の強い体験型の新しいタイプの観光やしぐみをいいます。観光庁は現在、「ニューツーリズムの振興」を「テーマ別観光による地方誘客事業」として展開しています。日本の観光旅行は、第二次世界大戦後の経済成長により生活が豊かになりレジャー志向が高まり広がりました。当時の観光は名所旧跡、自然やリゾート、テーマパークなどが中心でしたが、その後、社会の成熟化とともに人々の趣味や娯楽が多様化し、旅行者の志向や観光スタイルも多様化、細分化してきました。一方で地域側も観光を地域の産業や生活文化と結びつけ、様々なテーマで誘客提案を行うようになりました。本講義は、旅行・観光の意義やあり方の変化を旅行者と行政・地域側の両面から概観し、なぜ、ニューツーリズム振興が広がったのか、代表的なテーマ別観光についての特徴について、地域との関係とともに解説します。</p> <p>[科目の位置付け（全学年を通しての関連科目）]</p> <p>本科目は、本学部のカリキュラムポリシー(3)、ホスピタリティ・ツーリズムコースの実践的で柔軟な専門性を修得する科目に位置付けられます。旅行者の志向や旅行・観光スタイルは常に変化し、観光にかかわるプレイヤーも観光事業者以外に多岐に渡るようになりました。講義を通じて、観光が時代の変化に対応し、旅行者や地域側双方にとってのニーズの変化にどう応えていくべきかを考える機会とします。</p> <p>[到達目標]</p> <p>(1) 旅行者の志向や旅行・観光のあり方の変化を理解し、現在とその先について持論を展開できる。 (2) 代表的なニューツーリズム（テーマ別観光）の特徴や地域との関係を説明できる。</p>							
回	授業計画	授業外学修 (事前学修・事後学修)			担当者		
1	本講義の紹介 観光振興におけるニューツーリズムの位置付けを学ぶとともに、その他のツーリズムの授業、「観光サービス論」「観光資源論」「観光実務論」「観光まちづくり論」の学びの視点や目的の違いを理解する。ニューツーリズムが登場した背景として社会の変化とともに人々のライフスタイルや価値観も変化したことを理解する。	事前学修（90分）：シラバスをよく読み、この授業の方法・趣旨を確認する 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習課題に回答する			波瀾 郁代		
2	ニューツーリズムが生まれた背景① 本授業に必要な用語を理解する。人間の成長過程における旅行のし好の変化を理解する。	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
3	ニューツーリズムが生まれた背景② 社会変化に伴う旅行に対する考え方、志向の変化を理解する。	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
4	ニューツーリズムが生まれた背景③ ニューツーリズムを推進する行政機関の役割や施策、省庁連携について学ぶ。	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
5	ニューツーリズムが生まれた背景④ ニューツーリズムが推進されるためのノウハウ、流通などの課題および体制整備を事例を通じて理解する。	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
6	シェアリングエコノミーと旅行 ニューツーリズムを推進する仕組みの1つとして共有型経済、シェアリングエコノミーについて学ぶ。	事前学修（90分）：資料を読む、Airbnbのリスティングを日本・海外両方検索する 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
7	代表的なテーマ別観光① ～コンテンツコンテンツ・ツーリズム：映画・アニメのロケ地～	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
8	代表的なテーマ別観光② ～アートをテーマとしたツーリズム～	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
9	代表的なテーマ別観光③ ～音楽をテーマとしたツーリズム（クラシック音楽祭・ロックフェス）～	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
10	代表的なテーマ別観光④ ～ヘルスツーリズム～	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
11	代表的なテーマ別観光⑤ ～医療ツーリズム～	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
12	代表的なテーマ別観光⑥ ～アドベンチャーツーリズム～	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
13	代表的なテーマ別観光⑦ ～エコツーリズム～ 環境保全と活用、アドベンチャーツーリズムの違いを理解します。	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
14	グループワーク 「〇〇×ツーリズム」としてテーマ型観光の企画をする。	事前学修（90分）：資料を読む 事後学修（90分）：AAAに事前登録した復習問題に回答する			波瀾 郁代		
15	授業総括 これまでの授業全体の理解度のチェックと、特定地域のニューツーリズム（テーマ型観光による誘致事業）について、自らの考えをまとめ述べる内容のレポート作成を期末試験として実施する。	事前学修（90分）：本講義から得られた知見についての洗い出し 事後学修（90分）：授業内容を復習する			波瀾 郁代		
成績評価の方法と基準		授業への参加度（出席、リアクションペーパーの提出および内容から評価）・・・50% 授業全体の理解および自らの意見をまとめて表現する応用力を問う内容の期末試験・・・50%					

履修上の留意点	授業内容に関する積極的な回答や質問、事前・事後学修への意欲的な取り組みを期待します。地理や歴史の基礎的な知識を必要とします。
ディプロマ・ポリシーとの関連	本科目は、サービス経営学部ディプロマポリシー(1)～(3)と関連しています。とくにニューツーリズム(テーマ別観光)の様々な事例を幅広く学び、旅行者の求めているもの、観光事業者のサービスやホスピタリティについて理解することが重要です。
教科書	使用しません。
参考書・参考資料	適宜紹介します。
学生との連絡方法	AAAやメールを用いて連絡を取ります
実務経験科目	実務経験科目に該当する。株式会社JTBおよび株式会社JTB総合研究所に勤務。旅行商品の販売促進、広報実務、観光マーケティングに従事。JTBが50年以上発表し続けている、夏休み、年末年始、年間の旅行推計を15年以上担当。生活者のライフスタイルや価値観の変化による観光の変化を研究するとともに、自治体の総合計画や観光ビジョンの有識者委員や公的団体のまちづくりの専門官を務めた。実務経験をもとにニューツーリズムの特性について理論と実践の融合を図っている。